

第5学年 道徳学習指導案

日時 平成16年11月 9日(火) 授業
学級 5年2組 男16名女11名 計27名
授業者 佐々木 啓太

・総合単元名 社会のために進んで働く

・総合単元のねらい

相手の気持ちにたって考える大切さに気付き、一生懸命働こうとする心情を育てる。

・総合単元について

核家族や少子化が進み、高齢者や幼い子とふれ合う機会が減り、子どもたちは相手の立場に立って考える経験が少なくなっている。また、生活が豊かになり、ボタン一つで何でもできるような中では、勤労意欲も低くなりがちであり、家庭や地域における勤労経験は確実に減少してきている。子どもたちの中には、困っている人やお年寄りに親切にしてあげたい、自分もみんなのために働きたいという意欲をもっている子もいるが、それを実行できる場がわからないことと経験がないことで、自分の力を生かすチャンスを逃しているように見受けられる。そこで、立場の違う人たちにも思いやりの心をもつとともに、自分でできることを進んで考え、社会に実践的にかかわっていかうとする心構えを育てることが大切であると考え、総合単元「社会のために進んで働く」を設定した。

本単元では「出会う」の段階としてオリエンテーション「社会をつくる」や道徳「くずれ落ちただんボール箱」で自分の気持ちに置き換えて相手を思いやることのできる本当の親切について考えさせ「深める」につなげていきたい。「深める」の段階では、「総合的な学習の時間」の「私たちにできること」での活動や道徳「ボランティアクラブに入って」を通して、自己の満足感だけでなく社会のために役立つという実感を考える。さらに、働くことが喜びとなり、その人の生きがいにもなってくることを理解させたい。「生かす」段階では、「総合的な学習の時間」での「私たちにできること」の身近なボランティア体験を通して実践的な態度を身に付けさせていきたい。

子ども達の親切、社会奉仕にかかわっての実態を知るために、意識調査を行った。結果は以下の通りである。

「共に生きる」に関する意識調査 (調査月 9月 調査人数 54名)	
1 あなたは誰かに親切にされたことはありますか。	
・ある 42名	・ない 12名
それはどんなことですか。	
ある人・・・荷物をもってくれた。	
やさしい言葉をかけてくれた。	
けがをしたとき保健室に連れて行ってくれた。	
2 あなたは誰かに親切をしたことがありますか。	
・ある 42名	・ない 12名
それはどうしてですか。	
・困っている人がいるから。	
・親切にしてもらったことがあるから。	
・大変そうだったから。	
・だれも助けていなかったから。	
3 あなたが親切にしようとしてできなかったことがありますか。	
・ある 22名	・ない 32名
それはなぜですか。	
・はずかしかったから。	
・やろうと思っていたら他の人に先を越された。	
・本当に手を貸していいのかわからなかった。	
・「いい」と断られた。	
4 社会の役に立つことをしていますか。それはどんなことですか。	
老人ホームの慰問をした。 5名	廃品回収をした。 27名
共同募金に協力した。 36名	体の不自由な方の手伝いをした。 8名
知らない小さい子が困っているのを助けた。 8名	
小さい子どものお世話をした。 12名	
その他() 0名	

意識調査の結果から、社会のために働きたいとか人に親切にしたいという気持ちを多くの児童がもっていることがわかる。しかし、実際生活の中では親切にすることを恥ずかしいと思い行動をおこせなかった経験をもつ子どもも多い。また、地域や社会のための活動は子ども会で決められているからやるという主体的ではない行動が多い。自分が社会の一員として人とのかわわりを大切にしながら相手のことを思いながら、行動していこうとする態度がまだ十分に育っていないと思われる。

・総合単元の構想

時期	段階	意識の流れ	教科	特別活動	日常生活	家庭・地域
出 会 う	10月 3週	・私たちにできること ってなにかある のかな。		オリエンテーション 「社会をつくる」 ・これまで自分が周りの人からどのようなお世話をし て もらっているのかを振り返らせる。		
	10月 4週	・フィランに行って 私たちができるこ とは何だろう。		総合的な時間の学習 「私たちにできること」 ----- <計画の立案> ・フィランに行くための計画を立てさせる。		
深 め る	11月 2週	・友達もたくさんい いことをしてい るぞ。わたしもでき るかな。 ・認められるからで はなく自然に体が 動いてしまうのが 思いやりや親切な んだなあ。		帰りの会 <今日のスター> ・今日一日の生活を振り返り、一 日一善したことやしてもら たことを発表したり聞いたり させる。		
	11月 3週	・お年寄り喜んで くれるかな。 ・思ったより喜んで くれたぞ。もっと できることはない かな。 ・喜んでもらえるよ うにお手紙を書こう。		道徳の時間（本時） 主題名 困った人の身になって 資料名 くずれ落ちただんボール箱（出典 東書） ねらい 困っている人を見たときには、その人の身になって考え、親切にしようとする心 情を育てる。		
生 か す	11月 4週	・僕たちも悩んだこ とだ。相手のこと を思ったうえでの 行動が必要なんだ ね。		心のノート ・P42からP43 ・思いやりカードを書かせる。		
	12月 1週	・お年寄りだけでな く、いろいろな人 にちょっとしたボ ランティアをして みたいな。 ・人のためと思って やったボランティ アだけど自分の喜 びにつながるんだ ね。		<お年寄りとの交流> ・フィランに行ってお年寄りの方々と実際に接 しお世話する中で、充実感を味わわせる。 学級活動 「手紙を書こう」 ・触れ合った人々にお礼の手紙を 書かせる。		
				道徳の時間 主題名 奉仕するよろこび 4 - (4) (出典 文溪堂) 資料名 「ボランティアクラブに入って」 ねらい ボランティア活動の意義を理解し、社会のために奉仕しようとする心情を育て る。		
				<ボランティア活動> ・幼稚園に行き幼児のお世話を したり、公園の掃除をしたり、 再びフィランに行き前回できな かった活動をするなど自分の決 めたボランティアを行わせる。	高学団集会 「ボランティアについて知って もらおう」 ・自分達で活動したことを6年 生に発表すると共に、冬休みに 取り組んでみたいことを発表 させる。	

社会のために進んで働く子ども

本時の指導

1 主題名 困った人の身になって 2 - (2) 思いやり、親切

2 資料名 くずれ落ちただんボール箱 (出典:「希望を持って」東書)

3 ねらい

困っている人を見たときには、その人の身になって考え、親切にしようとする心情を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

高学年における指導内容2 - (2) は「だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。」である。これは、相手の立場になって、どのように対処することが相手のためになるのかをよく考え、思いやりや親切な心をもって生活できる子どもを育てようとする内容項目である。

人は、人間社会の中で多くの人たちと協力し合って生きている。思いやりの心で人に親切にすることは、よい人間関係を築くことだけではなく、明るく住みよい社会を築くことにもつながる。

この時期の児童は、だれに対しても思いやりの心をもって親切にする大切さを理解している。また、福祉活動やボランティア活動の重要性についても十分認知している。しかし、実生活を見ると、仲のよい友達や知人に対しては、やさしく親切にすることができるが、そうでない場合には、困っている人を見ても、進んで親切な行動をすることが難しいのが現実である。本当の親切とは、親切をする相手を選んだり、見返りを期待したりすることなく自分が相手を思う気持ちから自然と行動するものである。

そこで、本時では、「出会う」段階の道徳の時間として、思いやりと親切な心を育てていくことをねらいとしている。相手の立場を考えて、だれにでも親切にする心情を養うとともに、思いやりをもって接しようとする心情を育てること大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

学級の子どもたちは、全体的に明るく活発に学校生活を送っている。帰りの会の1日の振り返り発表では、手伝ってもらったり、困っている人に学習用具などを貸してくれたりしたことがあると感謝の発表をする児童が多い。アンケート結果をみると、様々な親切をしたことがある経験をもっており、半数以上の児童が、みんなのために役に立ちたいと強く感じている。

しかし、実際の生活をみると、自分が不都合のあるときや見知らぬ人とのかかわりとなると、知らないふりをしたり、その場から逃げるような行動をしたりする児童も少なくない。

これまで、友達や周囲の人に温かい気持ちで接し、親切にする大切さを指導してきた。そこで、だれに対しても思いやりをもって親切にすることは素晴らしいことであることを再認識させ、困っている人がいたらその人の立場や気持ちに立って、進んで親切をしようとする実践への意欲を育てたい。

(3) 資料について

孫がだんボール箱をくずしてしまい困ってしまっているおばあさんに代わって、わたしと友子はだんボールを整理する。しかし、事情を知らない店員にしかられてしまう。おばあさんから感謝の言葉をかけられたが、しかられたことに納得のいかない2人だった。数週間後、店員からの謝りの手紙を聞き、2人のとった行動は間違っていないことが明るくなるという内容である。

本資料では、主人公「わたし」の心を追いながら、だんボールを片付けるわたしの気持ちや店員に誤解を受けて、複雑な思いになる気持ちは共感できる内容であり、考えさせることができると思われる。また、困っている人に進んで行動したわたしのすがすがしい気持ちを感じ取らせるのに適した資料である。

5 「心に響く道徳の時間」における指導法の工夫 (仮説・・・手立て2とのかかわり)

ねらいに迫るために、次のような手立てを考えた。

<多様な考えを引き出す工夫>

・児童に心情図を活用させ、気持ちを引き出させながら発問することでねらいとする価値に迫りたい。


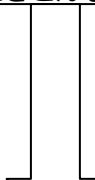

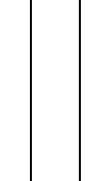
<書く活動を取り入れた展開の工夫>

・展開後段で「他の人に左右されずに相手のことを考えて、親切な行動をしたことがありますか。」を書かせることで、自分自身を振り返らせ、今後に生かせるようにしたい。

6 資料分析図

場 面	登場人物の心の動き	子どもの意識	発問の意図 / 発問
<p>男の子がだんボールをくずしてしまう。わたしと友子さんはおばあさんの困っている様子を見て、片付けを手伝うことにした。ひとつひとつ丁寧にだんボールを積み上げた。</p> <p>そこに店員がやってきた。わたしと友子さんは店員にだんボールを落としたと誤解され、注意を受ける。</p> <p>しばらくして、おばあさんと男の子はもどってきた。2人に感謝の言葉とお礼をしてくれた。</p> <p>始業式の日、店員から、謝りと感謝の手紙が届く。二人は読み終わると、校長先生から褒められうれしくなった。</p>	<p>(わたし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんが困っているから手伝おう。 ・そのままにはできない。 ・困っている人がいるのにほうっておけない。 ・勇気を出して手伝おう。 <ul style="list-style-type: none"> ・悪くないのにくやしいな。 ・片付けなければよかった ・おばあさんが喜んでくれるならいい。 ・おばあさんのために手伝ったのは間違っていない。 <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちがすっきりしない。 ・おばあさんにお礼を言われてうれしい。 ・自分はおばあさんのために親切をしたからよかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんに親切をしてよかった。 ・親切を認められてうれしい。 ・勇気を出して手伝ってよかった。 ・おばあさんのように困っている人がいたら、進んで手伝おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人はやさしいな。 ・わたしと友子さんは勇気をもって行動しているな。 ・知らない人なのに二人は勇気があるな。 ・役に立とうという気持ちはいいな。 <ul style="list-style-type: none"> ・よいことをしているのに。 ・店員さんに注意されたら手伝う気持ちもなくなるな。 ・自分だったらどうするか。 ・それでもおばあさんのためにか片付けするなんてえらいな。 <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんに誤解を受けたことを言えばいいのに。 ・お礼を言われてよかった。 ・親切をするって大変だな。 <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんに親切をしてよかった。 ・やっぱり親切をすると気持ちがすっきりしていね。 ・これからは相手のことを考えて親切にしてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしがどうして親切をしようとしたのかという気持ちを押さえる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>わたしは、どんな気持ちからだんボールを片付けようと思ったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・店員に誤解されながらも相手のことを思って手伝っているわたしの気持ちを押さえる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>だんボールを片付けていたのに、店の人に注意されたわたしは、そのときどんな気持ちだったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人に認められなくても自分が相手のことを考えて親切にした気持ちを押さえる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おばあさんにお礼の言葉を言われたとき、わたしは気持ちはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしが行った親切の行為は無駄ではなかったという充実感をもたせ、相手の立場になって親切にする気持ちよさを押さえる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>店員の手紙の内容を聞いたわたしはどんな気持ちになったのでしょうか。</p> </div>

7 展開

段階	学習の流れ	予想される児童の反応	支援の手立てと評価の観点
導入 5分	1 困っている人に親切をした経験を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・道を教えた。 ・友達や周囲の人に物を貸した。 ・泣いている友達のそばにいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートをもとに、児童の経験を紹介することで、ねらいとする価値への意識をもたせたい。
展開 前 段	2 資料「くずれ落ちただんボール箱」を読み、話し合う。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">わたしはどんな気持ちからだんボールを片付けようと思ったのでしょうか。</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんが困っているから手伝おう。 ・そのままにはできない。 ・困っている人がいるのにほうっておけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしがどうして親切をしようとしたのかという気持ちを押さえさせたい。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">だんボールを片付けていたのに、店の人に注意されたわたしは、そのときどんな気持ちだったでしょう。</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・悪くないのにくやしいな。 ・片付けなければよかった ・おばあさんが喜んでくれるならいい。 ・おばあさんのために手伝ったのは間 	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんのために手伝った気持ちと手伝っているのに店員に誤解されるわたしの気持ちを押さえさせたい。 ・主人公の複雑な気持ちを心情図で表現し多様な気持ちを引き出したい。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">おばあさんにお礼の言葉を言われたとき、わたしはどんな気持ちだったでしょう。</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちがすっきりしない。 ・おばあさんにお礼を言われてうれしい。 ・自分はおばあさんのために親切をし 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人に認められなくても自分が相手のことを考えて親切にした気持ちを押さえたい。
25分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">店員の手紙の内容を聞いたわたしはどんな気持ちになったでしょう。</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんに親切をしてよかった。 ・親切を認められてうれしい。 ・勇気を出して手伝ってよかった。 ・おばあさんのように困っている人がいたら、進んで手伝おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えた親切の行為のよさに気付かせ、わたしの心情に共感させたい。 (評)相手の立場になって親切にする気持ちよさをおさえることができたか。
展開 後 段 10分	3 本時の価値に照らして、これまでの自分の生活を振り返る。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">他の人に左右されずに相手のことを考えて、親切な行動をしたことはありますか。</div>		<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分の考えや行動を振り返らせながら、今後の実践へと結び付けさせたい。 (評)本時の価値を理解し、自分を見つめることができたか。
終末 5分	4 親切な行いをした児童の作文を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・親切のよさを表現した作文を読み、余韻を残しながら終わりたい。

